自治会活動報告

江差病院でのクリスマス会

12月20日に恒例の江差病院との交流会を実施しました。
今年はクリスマスカードの配布に加え、ハンドベル演奏を披露しました！

入院している患者様は季節を感じる機会が少なく、クリスマスを感じてもらおうと考え、クリスマス会を行いました。
今年は、ハンドベルの演奏とクリスマスカードの作成を行いました。時間が限られている中での演奏練習やクリスマスカードの作成で、全員が大変だなと感じることもあったと思います。
しかし、全員が患者様と関わり反応を感じることができたので、やって良かったなと思うことができたと思います。患者様にとっても私たちにとっても素敵なクリスマス会ができたのではないかと思いました。（後期学生自治会長　小林心優）

1・2年生が忙しい実習と試験の間に一生懸命ハンドベルを練習している様子や優しい音色に職員も心が温かくなりました。
実際に演奏している場面ではたくさんの入院患者様が聞いてくださり、手拍子をしてくれたり、涙を流して喜んでくださる方もいらっしゃいました。発表の場を設けてくださった江差病院のスタッフの皆様、ありがとうございました。
（自治会担当：山中）

▲1年生

▲2年生

ボランティア・地域との連携

春から参加してきました「かもめ島海浜清掃」も9月で終了となりました。最終回は学院長と私とで参加してきました。学生は授業で参加できませんでしたが、職員自ら地域で活動することで地域との繋がりを深めていくことになりますので、引き続き、積極的に協力していきたいと思います。
11月11日には、江差町内でのイベント「ニシン・チャレンジカップ（NCC）」に参加しました。実行委員会から、7月の高看まつりのミニ縁日で好評だった「ニシン一本釣り」のリクエストをいただき、3年生4名、1年生1名の学生5名で参加しました。夕方からのイベント当日は江差でも雪が舞う寒い日でしたが、予想以上の来場者があり、大人から子どもまでミニ縁日などを楽しんでいました。特に3年生は実習の都合で高看まつりに参加できなかったので楽しそうに活動していました。また、このイベントには函館の大学生や江差の高校生も参加しており、同年代の学生との交流も刺激になったのではないかと思います。
これから冬になるにつれて、地域のボランティア活動も少なくなりますが、今年度活動したことが、地域の方々に浸透してきていると実感できているので、引き続き連携を深めていきたいと思います。（副学院長・大島慎也）

▲青色のライトアップで海底を演出

スクールカウンセリングについて

～ 教員と連携し学生の皆様の学生生活をサポートします ～

●日程　1／25（木）2／22（木）オンライン（16:30～18:00）
　　2／ 6（火）　　対　　面（14:30～17:30）

●予約優先ですが、空いていれば予約なしの相談もできます。
予約専用メール　sc.soudan@gmail.com
①　氏名、②学年、③連絡先Tel、④希望日時、⑤希望方法、⑥相談内容

スクールカウンセラー
諏訪（すわ）先生

□■　学院行事等のお知らせ　■□

- ◆ 一般入学試験　1月11日（木）・12日（金）
- ◆ 学生始業　1月22日（月）
- ◆ こころのライブ授業　2月19日（月）
- ◆ 保護者面談　1月16日（火）・17日（水）
- ◆ 看護師国家試験　2月11日（日）
- ◆ 卒　業　式　3月4日（月）

北海道

北海道立江差高等看護学院 通信

第１１号［令和６年１月５日］

－ 発 行 －
北海道立江差
高等看護学院

～学院は創立25周年を迎えました～

学院の近況

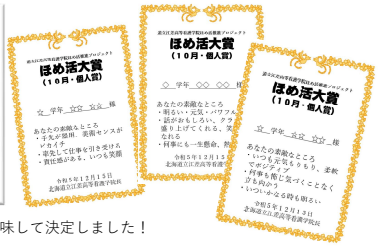
本格的な冬の到来を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年も一年、講義や実習はもちろん、江差高看まつりなどにおいて、多くの方々に学院運営にご協力いただき、学生の成長を支えていただきました。改めて感謝を申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。
さて、これまでもお知らせしてきましたが今年度から**「江差らしさ」**と**「道立の強み」**を活かした**「魅力あるカリキュラムづくり」**に取り組んでいます。8月には札幌医大病院や道立子ども総合医療・療育センター（コドモックル）（3年生）、10月には奥尻町役場や国保病院（1年生）、11月には江差病院の南檜山メディカルネットワーク事務局と総合診療科（2年生）で実習させていただきました。奥尻町では住民の方にインタビューしたり関係者から話を伺い離島の保健医療体制の実際を、江差病院では地域医療の現状とこの地域で働く医療従事者の使命を考えることができました。それぞれ短い時間でしたが、キラキラした表情で帰院する学生を見ていると『百聞は一見にしかず』、自分の目で確かめることが理解を深めると実感するとともに、それらの経験を意味づけ、主体的に「考え」「実践する」姿勢を学内で育む教育の責任も感じます。
学院の使命は**「地域医療を担う看護職員の養成」**、**「地域に根ざした看護を実践できる人材の育成」**です。今後とも、地域関係機関のご協力をいただきながら「江差だからこそ」学べる学習を積み重ね、求められる看護師を育成していきたいと考えています。
また、当学院では学生確保と同時に教員確保も課題となっているところですが、今年度**「看護教員プチインターンシップ」**を企画し、12月までに3名の方が参加してくださいました。‘プチ’という名の通りたった1日の体験でしたが、講義や演習の見学、教員とのランチョンミーティングなど、看護学校の日常を見ていただく良い機会になったようです。
3年生はいよいよ国家試験に向けてラストスパート。体調に気をつけて、持てる力を存分に発揮できるよう、職員一丸となってサポートしていきたいと思います。（学院長・石谷絵里）

ポインセチアが咲きツリーとともにホールを彩っています▶

第2回・ほめ活推進プロジェクト実施報告

記録更新！　**カード総数**　学生186枚　職員73枚　合計259枚

今年度2回目のほめ活週間（10/23～27）は、過去最高のカード枚数を記録し、さらに**学生全員が他の誰かにほめられる**という結果になりました！ 日常生活でも、感謝の気持ちを言葉にする、相手の小さな変化にも気がつく、助け合う、支え合うという姿勢がより強くなっているように感じます。
12月に実施した表彰式では、カードに書かれたコメントを抽出し、一人一人に表彰状を贈呈しました。自信をなくしかけた時には、自分の良いところを思い出して励みにしてくれると良いと思います。
表彰式には、教員インターンシップ受講生も参加し、学院の取り組みを見学していただきました。



▲大賞（1～3位）は学生間投票も加味して決定しました！

特集 江差らしさ・道立らしさを活かした 魅力あるカリキュラムづくり（その2）

令和5年度から、『江差の地域性』や『道立高看の強み』を活かした**特色あるカリキュラム**を目指し、実習内容の組み替えを行っています。今回は、奥尻島と江差病院での実習について、**学生の反応、成果**をご紹介します。

奥尻町（国保病院、役場、フィールドワーク、津波館）

1年生6名は、10月10～12日の2泊3日で奥尻島で実習を行いました。地域における人々の暮らしを知ることを目的に、初めて学外で行う実習（人と生活を知る実習）の一環です。

奥尻町国民健康保険病院では、緊急時の患者搬送にはドクターヘリが利用されていることや、道南圏医療連携システム（ID-Link）で他の医療機関と患者情報が共有され、島民が安心して暮らせることを知りました。**奥尻町役場**の**保健部門**では、出生数が年々減少し令和4年度は4名だったことや多職種と連携した母子保健活動の実際を伺ったり、漁師さんの24時間の生活に合わせた具体的な保健指導の内容について説明していただきました。また、**地域包括支援センター**では、高齢化率が42%と高いため、住民同士の繋がり・支え合いが特に大切であることを学びました。

町内のフィールドワークでは住民の方と触れあい、「この島で暮らしたい」という思いを強く持っている90歳の方とお話ができ、住民の方の島への愛着を実感しました。**津波館**では、震災当時の被害の様子を伝える写真パネルや当時の子ども達の詩を読み、一瞬で家族や同級生を失った悲しみ・苦しみ、そしてそのような状況にあっても、前を向いて進んで行こうというメッセージに胸を打たれ、南西沖地震から30年が経ちましたが、島民の皆さんの悲しみや苦しみは癒えていないことを知りました。震災当時、役場職員だった語り部の竹田彰さんからは、災害時の支援物資要求のポイントや残された人々の心のケアの重要性、生命の尊さ、日々の避難訓練から危機感を持つことの大切さ、看護師の役割などを教えていただきました。

晴れた日はすぐ近くに見える奥尻島を更に身近に感じるとともに、命と生活を守る保健医療従事者の役割について貴重な学びを得ることができました。（実習科目担当・教務主幹：坂上美智子）

奥尻国保病院

フィールドワーク

フェリー乗り場

奥尻町保健福祉センター

津波館

江差病院（南檜山メディカルネットワーク事務局・総合診療科）

2年生7名が、11月16日、江差病院へ見学実習に行きました（成人・老年看護学実習Ⅰ）。

「医療資源が限られた地域における多機関・多職種連携の必要性について学ぶ」ことを目的に、「南檜山メディカルネットワークの概要」、「地域医療と総合診療」について説明を受け、その後、札幌医大医学生・北海道家庭医療学センターとのカンファレンスに参加させていただきました。

全体会や実習レポートからは、「南檜山圏域の高齢化と人口減少、医療従事者の不足」、「地域による医療格差を最小にする取り組み」など、地域の現状と課題を理解できたようです。

また、地域医療における看護師のあり方について「地域の特性を知ることが大切」、「人生史を知ることや患者がどのように生きたいかなど、私たちが普段実習で考えていることと共通する」、「患者だけでなく家族の健康状態や支える力について捉えることが必要」、「多職種で情報を共有することや多職種との関係性が大事」など、多くの気づきを得られたようです。

学び舎のある江差町での医療・看護の難しさだけでなく、“住み慣れた地域で最期までその人らしく生活することを支える魅力”についても感じられ、今後の臨地実習での成長が楽しみです。今年度初めての取組でしたが、今後も‘道立の強み’を活かした実習として継続していく予定です。（実習係・講師：臺坂恵子）

＜１年生＞

後期に入り初めての実習を終え、6名全員表情が凜々しくなってきております。看護演習では、体位交換、清潔援助、バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）、栄養学では糖尿病食の調理など、基本となる技術を学び自己の技術向上に励んでいます。

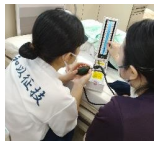
冬期休暇明けには初めての病院実習を控えていますので、座学で学んだ知識と演習で学んだ技術、そして看護学生としての態度を結びつけ大いに力を発揮してきてほしいと思います。

また、2～3月には1年次の学びの確認として模試を複数回予定しています。曖昧な知識を確実なものにする機会になるよう、ご家族からも応援をよろしくお願いします。

（１年生担当：竹田里美）

▼調理実習

▼学内演習（洗髪・バイタルサイン測定・体位交換・口腔ケア）



＜２年生＞

2年生は10月30日から「成人・老年看護学実習Ⅰ（国立函館病院）」を、11月27日から「成人・老年看護学実習Ⅱ（管内高齢者施設）」を行いました。実習が続く中でも、体調管理をしっかり行い、計画的に事前準備に取り組んでいました。実習での経験を通して「アセスメントができるようになった」、「患者様との関係を構築できた」など自己の成長を認め合う言葉が学生間で多く聞かれました。

教員も学生が生き生きとした表情で患者様と向き合う姿勢に成長を実感しております！

国家試験対策ではクラスで共通の問題集を購入し、朝学習に活用を始めました。11月に１年次に受けた模擬試験に再トライしたところ、確実に知識の定着が見られています。３月に模擬試験を予定しておりますので、引き続きご家族のご支援をよろしくお願いいたします。

（2年生担当：楠原千景）

実習前の決起会▶
(ハロウィン)

▼実習でのレクリエーション準備

▼ストマパウチのデコレーション

＜３年生＞

３年生は最後の集大成である統合実習を無事に終えることができました。３年間学んだことを十分に発揮できたのではないかと思います。長期間、実習と学習に追われ大変な日々を過ごすことができたのもご家族や仲間のサポートがあってこそだと思います。よく頑張りました。

実習後は、数科目の学習を行い、国家試験合格を目指しラストスパートの期間になります。学院内で国家試験の模擬試験を実施したり、非常勤講師による国家試験対策の講義を受け、専門科目の復習をしていきます。また、専任教員による国家試験対策の集中講義も予定しています。これからの時期は、学習をしながら規則正しい生活で健康管理を十分に行い、悔いのない時間を過ごしてもらいたいと考えており、そのためのサポートを全力で行って参ります。

佐々木副学院長が湯島天神で合格祈願をしてきました。私たち教員は、学生の持てる力を信じて見守るだけです。ご家族の皆様も、どうぞ温かく見守ってくださいますようお願いいたします。

（３年生担当：山中千晴）

◀統合実習で作った作品と発表の場面